



# 地域のひろば

## 瀬古の

# 流星

9月12日(月)、甲南

町竜法師瀬古の薬師堂

”会式”の日に、一風変わった

花火「流星」が打ち上げ

られました。

甲南は甲賀流忍術発祥

の地。数多くの秘薬を発明し中でも「火薬」は、か

なりの技術が進んでいました。

忍者が合図のために打ち上げた狼煙(のぼし)と伝えら

れ、夏の終わりに、花火の原形ともいわれる素朴な

流星が夜空に描

くオレンジの放物

線。

昭和初期から

途絶えていた幻の

流星は、火薬の配

合が記されていた

「瀬古青年買物控」

の発見を契機に

昭和51年復活し、

地域の人々の手

で伝承されており、

忍者の里を偲ぶ

風物詩となってい

◎ 初秋の夜空を彩る「流星」



▲ 竹筒に火薬を詰め打ち上げの準備をします

# 高原の秋の 空気を存分に

寄稿者 ● まちかど特派員 小谷 柳太 (信楽町)

信楽歴史街道をたずねる会(水谷光明代表)は9月4日(日)、奈良時代中期に紫香楽宮、大仏造営(みことり)を詔した聖武天皇往還の古道4.5キロをウォーキングしました。信楽町勅旨から牧地区にかけての古道で、甲賀市全域・他町村・他府県から参加した80余人を地元講師、案内スタッフら20人余がもてなしました。

一行は午前10時頃信楽高原鉄道(ぎょつがいじ)・玉桂寺前駅に集合し、大戸川に架かる吊り橋を渡り、玉桂寺に参詣、境内に残る弘法大使お手植えの榎の巨木、県内で2番目に古い銘の五輪塔などを見学しました。続いて江戸・明治・大正時代に盛んだった勅旨焼の古窯跡を訪問しました。

お昼には牧地区内・天狗山の麓の陶器工房で陶芸教室、木工教室に興じ、信楽コシヒカリのおにぎりや漬物、朝宮茶や多羅尾地区のコンニャクなど秋の味覚も堪能しました。



▲ かがり火を囲んで中世風流をしのばせる太鼓踊り (9/4 牧の日雲神社)

また同日、例大祭を迎えた日雲神社(ひぐも)も訪れ、伝統の太鼓踊を観賞しました。

玉桂寺は天皇家ゆかりの真言宗の古刹、勅旨古窯は神佛器作りで京大阪に名をはせましたが、その後衰え、現在では廃窯となっています。日雲神社の太鼓踊は中世(ふりゅう)の田楽風流の古い形を伝える無形文化で、いずれも白井住職、大西忠左氏(勅旨焼伝統工芸士)、野口定幸宮司、田村宏氏子総代長らが現地を解説しました。聖武天皇の輦(まん)を牽いた牛が倒れた地に咲き続ける「牛桜」のある陶房・ギャラリー経営者の田村静夫氏(信楽工業組合理事長)もインストラクターを揃えて、一行を歓迎しました。

信楽は鎌倉時代に遡る日本六大陶産地であり、また近年は紫香楽宮跡の発掘で全国的に知られた行楽地ですが、聖武天皇が平城京～忝仁京～紫香楽宮を行幸された古道はそれほどの脚光を浴びていません。今回の試みは、ほのかに残る古道を巡る予想以上のハイキング・コースとして人気を集めました。

◎ 「牛桜」の伝承が残る丘で解説に聞き入る一行 (撮影・花風香写真クラブ=甲賀町)

